

ダイダンの経営理念

—光と空気と水を生かす—

Always With You いつもあなたと共に…

ダイダンが届けたいのは、人と地球に優しい快適さです。

経営理念

総合設備工事業者として常に新たな価値の創造に挑戦し、より良い地球環境の実現と社会の発展に貢献する。

経営方針

1. 顧客第一の理念を通じて経営環境の変化に対応する。
2. コンプライアンスの精神に則った企業経営を行う。
3. 安全・品質の確保と環境保全に貢献する企業活動を行う。
4. 各戦略・各施策の相互連携により企業目標を達成する。

企業倫理規程

当社の役員および従業員が法令を遵守し、社会的な良識を持って行動するための5項目の「行動の原則」と14項目の「行動基準」を定めています。「行動の原則」は、日常の業務遂行において留意すべき事項をまとめたものです。「行動基準」は、「行動の原則」を基に、さらに具体的な指針を示したものです。

企業倫理規程

企業倫理規程より抜粋

— 行動の原則 —

1. 法令・社会規範を遵守し、良識ある企業活動を行う。
2. 持続的発展が可能な社会の構築に参加する。
3. すべての人の基本的な人権を尊重する。
4. 利害関係者との公正で透明な関係を維持する。
5. 社会の一員であることを自覚し、より良い社会の実現を目指す。

— 行動基準 —

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 顧客・ユーザーとの良好な関係 | 8. 労働条件と職場環境の整備 |
| 2. 安全性と品質の確保 | 9. 人権と個性の尊重 |
| 3. 公正で自由な競争 | 10. 環境問題への取り組み |
| 4. 適正な購買取引 | 11. 適正な会計処理と納税 |
| 5. 会社情報の適正な開示 | 12. 政治、行政との健全な関係 |
| 6. 重要な情報の適正な管理 | 13. 反社会的勢力の排除 |
| 7. 知的財産権の保護と尊重 | 14. 私的行為の禁止 |

■ ステークホルダーとの関わり

ダイダンは、お客さまをはじめ、株主、従業員、協力会社、地域社会の人々など、さまざまなステークホルダーの皆様との関わりの中で事業活動を行っています。企業が持続的に成長していくためには、事業活動を通じて、各ステークホルダーの皆様からの期待や要望を的確に把握し、それに応えていくことが必要であると考えています。



ステークホルダー

ステークホルダー	ダイダンの責任
お客さま	<ul style="list-style-type: none"> お客さまのご要望にお応えするとともに、付加価値の高い提案、高品質な快適空間の提供に努めます。 安全、安心な建築設備の提供 顧客情報の適切な管理
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> 企業価値を高めることを責務と認識し、透明かつ健全な経営を堅持するとともに、適時、適切な情報開示に努めます。 企業価値の増大 適正な利益還元 適時、適切な情報開示
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 従業員の「安全」と「健康」を最優先と考え、快適な職場環境作りを努めます。 雇用の維持、確保 人権や多様性の尊重 人材の育成 働きやすい職場環境の確保 労働安全衛生と健康の確保
協力会社 お取引先	<ul style="list-style-type: none"> 公正・透明・対等な取引を通じて、協力会社・お取引先との健全なパートナーシップの構築に努めます。 公平、公正な取引 施工技術の指導 安全衛生に関する配慮
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会の一員であることを自覚し、責任ある市民として社会貢献活動を通じて、地域社会との共生を目指します。 施工中の事故防止 地域住民との良好な関係 地域社会への貢献活動
地球環境	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の少ない施工方法や省エネ技術等の開発への取り組みを強化し、地球環境の保全や地球温暖化防止に努めます。 地球温暖化の防止 資源の有効利用 地球環境の保全

CSR 報告書 2012 目次

ダイダンの経営理念	1
トップメッセージ	3
ダイダンの事業活動	5
特集 完成工事紹介	7
ダイダンの技術力	9
2011年度 CSR活動の実績と次年度の目標	15
公正で透明な事業活動のために	17
環境保全のために	21
お客さまのために	23
従業員のために	25
協力会社とともに	29
地域社会のために	31
株主・投資家の皆様のために	33
第三者意見書	34

編集方針

本報告書では、ダイダンのCSR活動について、ステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的として発行しています。本年度は「完成工事紹介」を特集記事として掲載しました。

報告対象範囲

本報告書の対象組織は、ダイダン株式会社本体を基本としています。決算数値は連結で表示しています。

報告対象期間

2011年4月から2012年3月までを基本としています。一部2012年4月以降のものも記載しています。

参考にしたガイドライン

GRIガイドライン(G3)
環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
一般財団法人日本規格協会「ISO26000:2010」